

P - 22

本学のアドミッションポリシーの周知度について

○後藤哲哉^{1,7}、豊野 孝^{2,7}、荒井秋晴^{3,7}、稲永清敏^{4,7}、
西原達次^{5,7}、高田 豊^{6,7}

九歯大・¹頭頸解析、²口腔組織、³総合教育、⁴生理学、
⁵感染生物、⁶内科、⁷自己評価部会

アドミッションポリシーとは、大学の教育理念、目的、特色に応じて受験生に求める能力、適性等について示したものであり、本学においてもホームページ等で公開されている。本学のアドミッションポリシーは1.教育目標、2.求める学生像、から構成されているが、求める学生像の中の4項目について周知度を調べた。また、大学院のアドミッションポリシー5項目に関しても同様のアンケート調査を行った。また、比較として大学の理念の周知度と比べた。学部学生404名、大学院生30名から回答を得た。学部学生のアドミッションポリシーの周知度は1年生が5割ほど知っているのに対し6年生では2割程度と低かった。理念の周知度と比較すると、1年生6年生ともに理念の周知度の方が高かった。大学院生のアドミッションポリシーの周知度は4割ほどであり、大学院生でも理念の周知度（7割ほど）に比べると低かった。アドミッションポリシーは大学の特色を示すものであり、入学後の学生のモチベーションとも直結する事項である。今後アドミッションポリシーの周知度を上げるとともに、入学後もアドミッションポリシーに即したカリキュラムを実行する必要性が示唆された。

P - 23

本学歯学部学生における生活実態の把握および学習・生活支援の満足度

○荒井秋晴^{1,7}、高田 豊^{2,7}、豊野 孝^{3,7}、稲永清敏^{4,7}、
後藤哲哉^{5,7}、西原達次^{6,7}

九歯大・¹総合教育、²内科、³口腔組織、⁴生理学、⁵頭頸解析、
⁶感染生物、⁷大学自己評価部会

教育効果を向上させるために、教育そのものの満足度を上げるだけでなく、学生の生活実態を考慮に入れた教育を心がけることも重要である。さらに、必要に応じた適切な生活指導助言は、より良い教育効果を期待できると考えられる。そのためには、今大学が行っている学習や生活に対する支援の満足度を把握することも必要である。これらの目的から、平成18年度と19年度にアンケート調査を行い、比較検討した。なお、この間に新本館の竣工という大学環境の大きな変化があった。調査の結果、「友人関係」、「サークル(部)活動」および「アルバイト」などについては、両年度間の差はなく、ほぼ同様の傾向を示した。「自主学習」については、場所として本学の「図書館」と「自習室」を利用する割合、および「1日に4時間以上」学習する割合が、わずかだが増加した。これらは、本館竣工により学習環境が整ったためと考えられる。しかし、「大学は学生のニーズを把握しているか」、「留学生や障害を持つ学生に学習や生活面で配慮しているか」などについてはやや悪くなり、今後の改善だけでなく、配慮内容の学生への周知の必要性が考えられた。